

# エコアクション21環境活動レポート 2011

株式会社武揚堂 目黒事業所

対象期間 2010年10月～2011年9月

発行年月日 2011年10月31日

## 1. 組織の概要と対象範囲

### (1) 企業名および代表者

株式会社武揚堂 代表取締役 小島 武也

### (2) 所在地

本社 : 東京都中央区日本橋3-8-16 (TEL : 03-3271-2451)

## 【14-A-1】環境活動レポート

目黒事業所：東京都目黒区碑文谷 1-3-25 (TEL: 03-3714-7431)  
大阪支店：大阪府大阪市中央区内本町 1-2-13 (TEL: 06-3271-2451)  
北陸営業所：新潟県新潟市江南区東船場 3-2-3 (TEL: 03-3271-2451)  
四国営業所：香川県高松市錦町 1-18-3 (TEL: 087-823-2840)  
仙台営業所：宮城県仙台市青葉区二日町 13-30 (TEL: 022-222-8781)

### (3) 会社ホームページ

<http://www.buyodo.co.jp>

### (4) 環境管理責任者氏名および連絡先

環境管理責任者 貝瀬 公一郎 (TEL: 03-3714-7431)

### (5) 事業活動の内容

地図印刷、一般印刷、現地調査、電子地図作成、屋外広告施工、Web制作

### (6) 認証・登録の対象範囲

目黒事業所を対象範囲とする

### (7) 対象範囲拡大の方針およびスケジュール

認証登録後、初回更新審査時に、本社、大阪支店、北陸営業所を含む全事業所に認証・登録の対象範囲を拡大する

事業所	従業員数	主な事業活動	認証・登録
本社	常駐者無し	営業、制作 ※登記上の本社所在地であるが、現在実質的な本社機能は目黒事業所にある	2013年3月に拡大
目黒事業所	71名	本社機能(代表者が常駐)、営業、制作、製造、車両6台	対象
大阪支店	7名	営業、制作	2013年3月に拡大
北陸営業所	4名	営業、制作、車両2台	2013年3月に拡大
四国営業所	常駐者なし	営業	環境負荷に影響が無い為、目標設定はしない
仙台営業所	常駐者なし	営業	2015年3月に拡大

※従業員数は平成23年9月30日現在

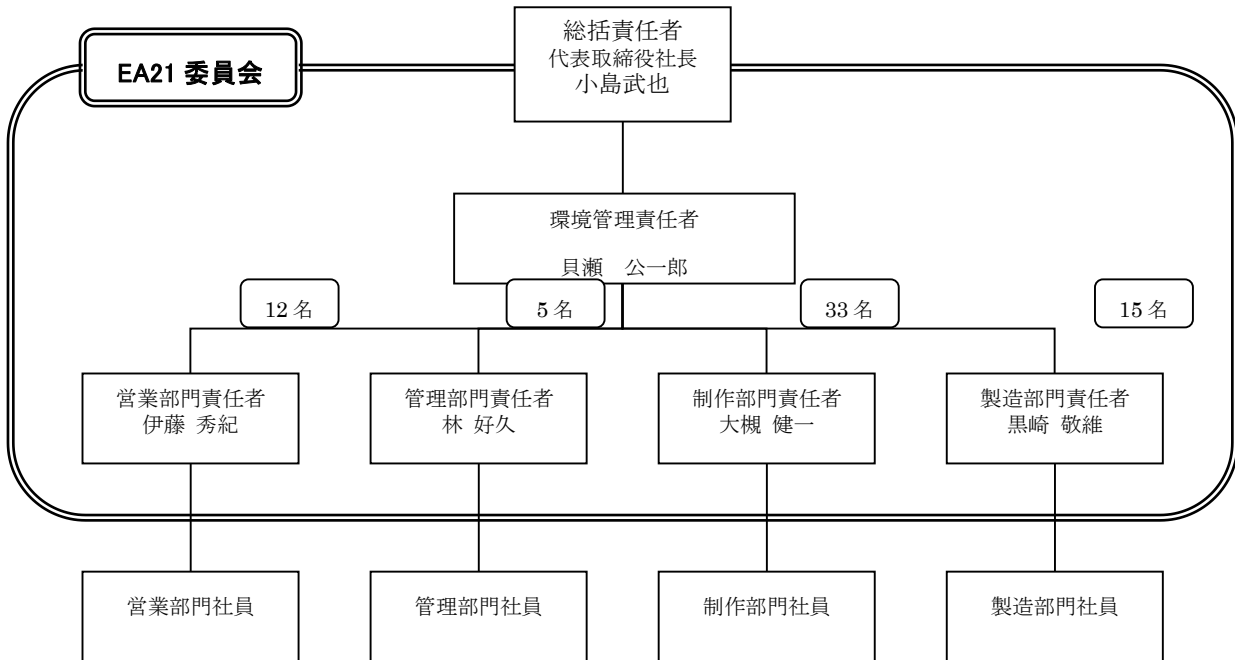
### (8) 事業規模(目黒事業所のみ)

売上高 8.5億円(平成23年9月度現在)  
従業員数 71名(正社員52名、パートタイマー・アルバイト社員19名)  
敷地面積 1,593㎡  
車両台数 6台  
主要設備 オフセット印刷機、各種DTP用端末、大型インクジェットプリンター など

【14-A-1】環境活動レポート

(9) 実施体制図および役割

6名



社長	環境方針を策定する EA21の実行に必要な資源(人・物・金・情報)を用意する 環境管理責任者を見直しする EA21の全体的な取組状況を評価し、見直し、必要な指示を行う
環境管理責任者	環境経営システムを構築し維持する 環境経営システムの構築・運用状況を社長に報告する 環境活動の予実管理を行い、数値のとりまとめを行う 環境活動レポートを取りまとめ、作成する EA21委員会を開催する
EA21委員会	原則として年4回開催し、実施状況の確認と必要な措置を検討する 全体的な見直しのために必要なデータを集計する
各部のEA21部門責任者	自部門の環境教育を推進する 自部門の環境活動計画の具体的な取り組み内容を実践し推進する
社員	EA21部門責任者の管理・指導の下、環境活動を推進する

## 【14-A-1】環境活動レポート

### (10) 環境活動レポートの公表の方法

- ① 当社ホームページに掲載し、公表します。
- ② 当社本社および事業所に書面で備え付け、閲覧に供します。
- ③ エコアクション 21 中央事務局ホームページに掲載し、公表します。

## 2. 環境方針

### 環境保全の理念

株式会社武揚堂は、今ある命と今後生まれくる命の為に、今ある地球環境をよりよい状態で次の世代に引き継ぐことが持続企業の使命の一つであることを深く認識し、今よりも更に豊かで安全な地球環境の実現に寄与するよう努めます。

### 環境行動指針

当社は地図印刷を主体とし、一般総合印刷、グラフィックサイン、GISなどを用いて顧客の問題を解決する事を事業活動としています。この事業活動を営むにあたり、以下の行動指針を定めま

す。

- ① 製品の企画・設計、原材料の調達、製品の製造から出荷、リサイクルおよび営業活動まで、環境に対する影響を常に配慮します。
- ② 環境目標を設定して環境負荷削減に取り組み、継続的改善を図ります。
- ③ 二酸化炭素排出量削減(省エネルギー)を推進します。
- ④ 廃棄物の削減とリサイクル活動を推進します。
- ⑤ 総排水量削減を推進します。
- ⑥ 化学物質の適正管理を推進します。
- ⑦ 事務用品や原材料のグリーン購入を推進します。
- ⑧ エコプリンティングを推進します。
- ⑨ 関係する環境関連の法律、条例を遵守します。
- ⑩ 環境教育、掲示物を通して全従業員の環境意識の向上に努め、近隣及び社会との環境の調和を図ります。

平成 22 年 8 月 1 日

代表取締役 小島 武也

## 【14-A-1】環境活動レポート

### 3. 環境目標と活動計画

施行期間を2010年10月～2011年9月とし、その目標設定の為に基準年を2009年10月～2010年9月とした。

#### (1) 二酸化炭素削減

総エネルギー消費量の削減を行うため、下記活動を継続的に実施する。

##### ① 電力量削減

- ・ 電力使用量の把握(請求書より計算)
- ・ 昼休み時の消灯
- ・ エアコン温度の適正化(夏季27℃・冬季21℃)
- ・ PC使用台数の削減
- ・ 印刷機の適正運転管理

##### ② ガソリン使用量削減

- ・ ガソリン使用量の把握(請求書より把握)
- ・ エコドライブの促進(運行記録より把握・教育)

##### ③ 都市ガス使用量削減

- ・ 都市ガス使用量の把握(請求書より把握)
- ・ エアコン温度の適正化(夏季27℃・冬季21℃)

#### 【設定目標】

	2009年10月～2010年9月実績		2010年10月～2011年9月目標		削減率
	消費量	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	消費量	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	
電力量(kW/h)	347,598	145,296	344,123	143,843	1%
ガソリン(ℓ)	18,916	43,916	18,727	43,477	1%
都市ガス(m <sup>3</sup> )	28,935	61,007	28,646	60,397	1%
CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	-	250,219	-	247,717	1%

CO<sub>2</sub>排出係数は平成20年度東京電力値：0.418kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用。

(<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=11956>)

#### (2) 廃棄物削減

資源浪費の防止とリサイクルを推進するため、廃棄物削減に関して下記活動を継続的に実施する。

- ・ 廃棄物排出量の把握(マニフェストから把握)
- ・ 分別の徹底
- ・ コピー用紙リサイクルの推進(シュレッダー使用の原則禁止)

**【14-A-1】環境活動レポート**

- ・ 損紙の削減(予備紙・校正紙の使用枚数適正化、不良率の削減)
- ・ 資材(インキ、溶剤、現像液、湿し水)の適正使用・管理による廃棄物としての排出削減

目標値は、2009年10月～2010年9月実績を基準とし、目標を1%削減とした。

**【設定目標】**

種別	※単位は kg	2009年10～ 2010年9月実績	2010年10～ 2011年9月目標	削減率
リサイクル	紙(印刷用紙)	42,478	42,054	1%
	紙(雑誌・チラシ)	4,156	4,115	1%
	紙(ダンボール)	3,925	3,886	1%
一般産業廃棄物	一般産業廃棄物(生ごみ等)	20,110	19,909	1%
事業系産業廃棄物	金属くず	205	203	1%
	廃油	2,764	2,737	1%
	廃フィルム	2,852	2,823	1%
	廃プラ	3,585	3,549	1%
	廃酸	1,089	1,078	1%
	廃アルカリ	503	498	1%
特別管理産業廃棄物	廃強アルカリ※	4,150	4,109	1%

※特別管理産業廃棄物は、刷版現像に使用する現像機の廃液である。

**(3) 総排水量削減**

総排水量(生活用水)の削減のため、下記活動を継続的に実施する。

- ・ 総排水量の把握(請求書より把握\*)

※単位は m <sup>3</sup>	2009年10月～2010年9月実績	2010年10月～2011年9月目標	削減率
総排水量	952	943	1%

**(4) 化学物質の管理**

化学物質の適正管理および使用量の把握を行うため、下記活動を実施する。

- ・ MSDS の取得・保管
- ・ 化学物質(PRTR 対象物質)使用量の把握
- ・ 環境負荷の低い化学物質を使用する資材への変更の検討

**(5) マテリアルフローの把握**

資源浪費の防止と生産効率の向上のため、マテリアルフローの把握を下記のマテリアルについて実施する。

- ・ 印刷用紙使用量の把握

重量に関しては用紙連量÷1,000=用紙1枚あたりの重量(kg)×使用枚数で求める。

**【14-A-1】 環境活動レポート**

- ・ 刷版使用量の把握
- ・ インキ使用量の把握

※単位は kg	購入実績	使用実績	廃棄・リサイクル
印刷用紙	225,877	218,564	42,478
刷版	8,026	8,026	8,787
インキ	3,761	2,677	1,826

**(6) グリーン購入の促進**

環境負荷の低減と、環境経営に取り組んでいる企業を支援するため、できるだけグリーン購入法対象製品の購入を促進する。まずは対象品目の把握に努める。

**(7) 中期環境目標**

管理方法	方針	取組	目標(2011年度) 2010年10月～ 2011年9月	目標(2012年度) 2011年10月～ 2012年9月	目標(2013年度) 2012年10月～ 2013年9月
総量管理	CO2の削減	電気使用量の削減(kw)	344,123	395,740	391,783
		ガソリン使用量の削減(ℓ)	18,727	18,540	18,355
		ガス使用量の削減(m <sup>3</sup> )	28,646	5,518	3,000
	廃棄物の削減	ヤレ紙の削減(kg)	42,054	41,634	41,218
		金属くず(kg)	203	201	199
		廃アルカリの削減(kg)	498	493	489
		廃油の削減(kg)	2,737	2,709	2,682
		廃フィルムの削減(kg)	2,824	2,796	2,769
		廃プラの削減(kg)	3,550	3,515	3,480
		廃酸の削減(kg)	1,079	1,069	1,059
		廃アルカリの削減(kg) (特別管理産業廃棄物)	4,109	4,068	4,028
		一般ごみの削減(kg)	19,909	19,710	19,513
		水使用量の削減	総使用水量の削減(ℓ)	943	934

※ 数値は2009年10月～2010年9月の実績を基準とする

※ 2012年度には東京都クレジット創出プログラム助成金によるGHPからEHPへの変更を予定

**4. 実績と評価**

**(1) 認証・登録に向けての取り組み経緯**

現在世界的に環境に対する企業活動の影響について注目されることが多くなり、環境への対応を怠ること自体が企業存続のリスクとなってきている。また、企業活動は地球やそこに存在する生命から恵みを与えられ、かつ多大な影響を与えている。

経営上のリスクを減少させ、今ある地球環境を次の世代にもよりよい形をつないでいく為、さらに企業と生きとし生けるものとの共存・共栄を図るためにも、環境マネジメントの導入が必要であると判断した。

【14-A-1】環境活動レポート

2009年10～2010年9月までを基準年として削減率をかけて目標とし、2010年10月～2011年9月の施行結果に対する評価を行い、本レポートを取りまとめた。

(2) 環境負荷の実績

① 総エネルギー量削減

	2010年10月～2011年9月 目標		2010年10月～2011年9月 実績		削減率
	消費量	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	消費量	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	
電力量(kw/h)	344,123	143,843	323,784	135,342	6%
ガソリン(ℓ)	18,727	43,477	22,284	51,736	-19%
都市ガス(m <sup>3</sup> )	28,646	60,397	20,898	44,062	27%
CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	—	247,717	—	231,140	6%

② 廃棄物削減

種別	※単位は kg	2010年10月～ 2011年9月 目	2010年10月～ 2011年9月 実	削減率
リサイクル	紙(印刷用紙)	42,054	45,175	7%
	紙(雑誌・チラシ)	4,115	4,365	6%
	紙(ダンボール)	3,886	4,454	15%
一般産業廃棄物	一般産業廃棄物(生ごみ等)	19,909	20,820	-5%
産業廃棄物	金属くず	203	0	0%
	廃油	2,737	4,123	-51%
	廃フィルム	2,823	1,729	39%
	廃プラ	3,549	5,610	-58%
	廃酸	1,078	1,323	-23%
	廃アルカリ	498	626	-26%
特別管理産業廃棄物	廃強アルカリ(刷版現像液)	4109	2,830	31%

③ 総排水量削減

※単位は m <sup>3</sup>	2010年10月～ 2011年9月 目標	2010年10月～ 2011年9月 実績	削減率
総排水量	943	906	4%

④ 化学物質の管理(この報告書では該当化学物質を1リットル以上使用しているものを表示)

PRTR 該当物質(単位はℓ)	2008年10～ 2009年9月 実績	2009年10～ 2010年9月 実績	2010年10～ 2011年9月 実績
ヒドロキノン	13.38	4.67	8.79
キシレン	64.15	75.90	98.66
1,3,5 トリメチルベンゼン	275.4	243.17	130.95
ナフタレン	5.13	3.82	0
クロロトルエン	249.48	203.28	0
1,1-ジクロロ-1-フルオロエタン	58.32	47.52	0



【14-A-1】環境活動レポート

ジクロロペンタフルオロプロパン	11.34	9.24	0
ジクロロメタン	0	2.52	0.84
エチルベンゼン	0	0.04	0
ポリノニルフェニルエーテル	0	0.1	0

⑤ マテリアルフローの把握(2010年10月～2011年9月)

※単位は kg	購入実績	使用実績	廃棄・リサイクル
印刷用紙	305,645	294,526	45,175
刷版	6,927	6,927	7,941
インキ	3,205	3,195	2,162

⑥ グリーン購入の促進

グリーン購入の基準を設定した。

(3) 購入電力の CO<sub>2</sub> 排出係数

購入電力の CO<sub>2</sub> 排出係数については、環境省 HP に掲載されている「平成 20 年度の電気事業者別実排出係数・調整後排出係数等の公表について（お知らせ）」

(<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=11956>)より最新年度の数値を引用して計算する。

○東京電力⇒0.000418(t-CO<sub>2</sub>/kWh)

(4) 環境活動計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

数値の取得に関しては継続して出来ている。但し全社的な理解と実践がまだまだ欠けている為、教育・啓発活動を行っていく事とする。

## 【14-A-1】環境活動レポート

### 5. 法令順守

#### (1) 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価の結果

環境法令を当社の関係する主要な関係法令は、以下の通りである。これらの関係法令に基づく管理、規制基準の遵守、届出等の状況を確認した結果、いずれも適切に実施されていると評価した。

法規制等の名称	遵守内容	遵守状況
廃棄物処理法	廃棄物は全て産廃業処理者に委託して処理 排出量はマニフェストにて管理・保管(5年間) 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	遵守
大気汚染防止法	法定基準の遵守	遵守
フロン・回収破壊法	第一種フロン類回収業者への回収委託	遵守
騒音規制法	印刷機の届出・騒音測定 規制基準の遵守	遵守
振動規制法	印刷機の届出 規制基準の遵守	遵守
消防法	自衛消防隊の編成 自衛消防訓練の実施	遵守
PRTR 法	指定化学物質の排出量の把握および届出	遵守
東京都環境確保条例	排出基準の遵守	遵守
目黒区廃棄物の発生抑制、再利用の促進及び 適正処理に関する条例	規制基準の遵守	遵守

#### (2) 違反、訴訟等の有無

上記関連法規を理解・遵守し運営している。なお、過去3年間関係当局より違反の指摘は無い。また、外部からの苦情及び訴訟も無い。

### 6. 代表者による評価と今後の進め方

#### (1) 代表者(社長)による評価

今回は施行途中で、東日本大震災という未曾有の大惨事がわが国日本を襲った。直接的な被害も甚大ながら、原発停止に伴う電力不足が非常に影響が大きく、弊社もその影響を免れなかった。

一番の問題は計画停電であり、生産計画が立てられなかったということと、夏場の節電であった。弊社も節電を実現する為に生産現場のシフトを変更し、休憩時間も午後2時からに変更してピークカットを行った。

そういった努力の甲斐もあり、電力および都市ガスに関しては使用量の大幅な削減が達成された。但し今回は震災直後という緊張状態、絶対に協力しなければならないという使命感があった為、節電に対して全社一丸となって協力することが出来たが、来期はそういった状況ではなくなり、切迫感が薄くなる為、同じような取り組み方法では社内の不満だけが増幅する可能性がある。

節電を単なる震災への対応とするのではなく、恒常的なコストダウンの一環として捉え、精神的な取り組みではなく具体的な仕組みとして取り組めるようにしていきたい。

## 【14-A-1】環境活動レポート

そのひとつとして、一年前から取り組んでいた東京都クレジット創出プログラムの助成を受けられることになった。弊社目黒事業所の設備もかなり老朽化しており、運用だけでは省エネ効果が見込めない状況になっていた為、設備投資を行い最新鋭のトップランナー機器を導入していくことにより、大幅な節電効果を実現していくこととする。

その他には、水および化学物質の使用量削減の為に印刷機の湿し水ろ過装置の導入や、印刷用紙リサイクル増進およびそれに伴う事業系一般産業廃棄物削減の為にリサイクル業者変更、刷版現像液の廃液削減装置の導入を行う。

### (2) 見直しの結果と今後の進め方

今回は震災発生により異常な状態となっている為、基準数値はあくまでも 2009 年 10 月～2010 年 9 月として目標を設定していくこととする。

上記目標を達成する為、仕組みに落とし込んでいく為に、下記取り組みを行っていく。

- 古紙リサイクルの促進の為に、業者変更を行う。
- 水および化学物質使用量削減のために、印刷機の湿し水ろ過装置を導入する。
- 刷版の廃液削減装置を導入し、特別管理産業廃棄物の排出量を削減する。
- 廃プラのリサイクル促進の為に、RPF 化できる業者に変更する。
- 東京都助成金を利用した電気式空調および高効率照明等への変更を行う。
- エコプリンティングの教育を開始し、顧客への提案を行っていく。
- ガソリン使用量を抑える為に、営業方法の見直しとエコドライブを徹底させる。